

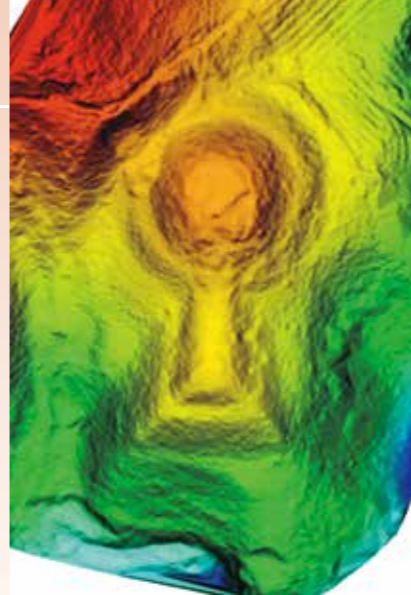
甲立古墳は語る — 地方に残された 畿内王権の古墳文化 —

シリーズ 第3回

教育委員会生涯学習課
川尻 真

3月1日に国史跡に決定した甲立古墳。最終回の今回は甲立古墳全体からみた特徴とその意味について紹介します。4月16日から開催する国史跡指定記念企画展「史跡 甲立古墳展」で奥深い甲立古墳をご覧ください。

これまで最も顕著で重要な発見となった家形埴輪の出土を中心に紹介してきましたが、この家形埴輪も含め、古墳全体として甲立古墳は大きな意味を持っています。左の図、「レーザー測量図」は精密な三次元データにより地形の高さを色分けであらわしたものです。見事に前方後円墳の形をあらわしています。高低差でこれだけはっきり形がわかるのは、墳丘が崩れておらず保存状態が極めて良いことを示しているのです。ほぼ正円の後円部とその下方にやや開き気味に伸びる前方部、北東上で



尾根を大きく削り込んだ状況などが正確にあらわされています。北西から南東に向け伸びる急な尾根を削り、または部分的に盛土して設計図のとおり墳丘を造築、また古墳の長軸の中心線はほぼ南北方位に合わせたものとみられます。山の斜面にほぼ正確な平面80m、高さ最大15mの墳丘を築ける高度な測量技術が使われているのです。

家形埴輪を用いた遺構で埴輪祭祀が行われていること、これを取り囲むように後円部墳頂の外周に円筒埴輪を主とする埴輪列があること、家形埴輪をはじめ出土する埴輪類は畿内のもので変わらぬ精巧な造りであること、中四国地方で初の出土となった船形埴輪など甲立古墳に残された様々な要素や痕跡は畿内王権の古墳文化そのものであり、当時の政治的動向や被葬者像を反映した古墳として今後の古墳時代研究の中でも高く評価される古墳なのです。



※赤線内が史跡範囲

国史跡指定記念企画展 「国史跡 甲立古墳展」開催

会期：4月16日～6月26日
会場：安芸高田市歴史民俗博物館
国史跡となった甲立古墳で注目の家形埴輪5基を復元展示。県内の前方後円墳出土の至宝も合わせて展示！

編集後記

特集の際、取材にに応じてくれた皆さんには大変お世話になりました。そして職場には、全国や県内の自治体から沢山の広報紙が届いており、いつも刺激を受けています。特集を作るきっかけにもなりました。この場を借りてお礼を申し上げます。

本号で相棒の田村さんが退職されるので最後の広報紙作成でした。万感の想いを込めて「ありがとう」。(原田)

最初は苦手で仕方がなかった広報の仕事も、時が経つにつれて愛着が増していきました。何も無いところから企画し、取材をして、紙面にまとめること。それが思うようにできず何度も心が折れそうになりましたが、この経験は自分に大きな成長をさせてくれました。未熟なため多くの方々に迷惑を掛けましたが、何よりも安芸高田市での出会いに感謝しています。ありがとうございました。(田村)

今月の表紙

言わずと知れた安芸高田市のYouTuber(ユーチューバー)、SMILEY DRAGON(スマイリードラゴン)さん。終始笑顔、終始しゃべり続けて、ノリノリで表紙撮影に協力してくれました。

人輝くまちの情報誌「広報あきたかた」

NO.146
4
2016.APR

発行編集 安芸高田市 政策企画課 〒731-0592 広島県安芸高田市吉田町吉田791 Tel.(0826)42-5612 Fax.(0826)42-4376 http://www.akitakata.jp/

Akitakata

愛は安芸高田市を
救うんじゃーワシのこたあ
特集4ページに書いてるけん
読んでつかあさいー!



(今月の主な内容)

- 2 これからの広報
- 6 平成28年度予算